

巻頭言

日本作業療法教育研究会とは何か

吉川ひろみ 事務局長・副会長

私はアメリカ作業療法協会（以下 AOTA）とカナダ作業療法士協会（以下 CAOT）の会員でもある。会員証の裏には次のような記載がある。

AOTA Mission Statement: The AOTA advances the quality, availability, use, and support of occupational therapy through standard-setting, advocacy, education, and research on behalf of its members and the public. (使命：AOTA は作業療法の質を高め、利用し易さを向上させ、OT がよく使われるようにし、OT をサポートする。AOTA は会員と公衆に代わって標準基準の設定、代弁、教育、研究を通して、これが行われるようにする。)

CAOT Our Mission: To advance excellence in occupational therapy. **Our Vision:** All Canadians will have awareness of, and access to occupational therapy. (使命：OT の素晴らしさを発展させていくこと。理想：すべての人が OT を知り、利用できるようになること。)

数年前まで AOTA 会員証の裏面には学会や研修会の予定が記されていて、5 名以上新入会員を紹介したら景品がもらえるという企画もあり、会員数や活動性の向上を狙っていたようだ。その後 AOTA は生涯教育システムを導入したり、オンライン学習コースを用意したりと、OT の質の向上へとシフトしているように見える。CAOT は、昨年くらいから文献検索など情報データベースの閲覧を会員だけでなく、学生にも無料にしたり、時々魅力的なポスターが機関誌に同封される。社会の中で OT を見えるようにする努力だと思う。

本会が会員証を作るとしたら、どんな裏書きがされるのだろう。本会の目的は「作業療法教育に関する研究の充実発展」と記されている。会員の使命は、OT 教育の質を高めることである。さらには OT 教育がもつ可能性をさらに発展させることも考えられる。また、OT 教育という分野の素晴らしさを社会に広めることもできる。最近話題の問題解決型学習は、OT プロセスと似ていると思う。作業療法士とクライアント、教員と学習者がパートナーになって、誠実さとオープンさを基盤に、共に歩を進めるプロセスである (Baptiste S: Problem-Based Learning: A Self-Directed Journey. Slack, 2003)。力を分け合い、情報を共有し合い、試行錯誤の中での発見を大切にする OT や OT 教育と、権威を重んじ、排他的性質をもつ既存組織との衝突は免れないことを自覚する必要があると思う。このような環境的障壁があっても私たちは、柔軟な発想と様々な裏ワザで、壊したり、潜り抜けたり、瞬間移動したりすることだろう。そのための知恵と力を蓄えることに貢献する研究会でありたいと思う。